

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成27年11月12日
【四半期会計期間】	第52期第2四半期（自平成27年7月1日至平成27年9月30日）
【会社名】	株式会社廣濟堂
【英訳名】	KOSAIDO Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 長代 厚生
【本店の所在の場所】	東京都港区芝四丁目6番12号
【電話番号】	(03)3453-0550(代表)
【事務連絡者氏名】	広報IR部長 茅島 葉子
【最寄りの連絡場所】	東京都港区芝四丁目6番12号
【電話番号】	(03)3453-0550(代表)
【事務連絡者氏名】	広報IR部長 茅島 葉子
【縦覧に供する場所】	株式会社廣濟堂大阪支店 (大阪府豊中市蛍池西町二丁目2番1号) 株式会社廣濟堂神戸営業所 (兵庫県神戸市中央区東川崎町一丁目5番7号) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第51期 第2四半期連結 累計期間	第52期 第2四半期連結 累計期間	第51期
会計期間	自平成26年4月1日 至平成26年9月30日	自平成27年4月1日 至平成27年9月30日	自平成26年4月1日 至平成27年3月31日
売上高 (百万円)	16,838	16,624	36,074
経常利益 (百万円)	857	272	2,192
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益又は親会社株主 に帰属する四半期純損失 () (百万円)	427	701	778
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	864	730	2,104
純資産額 (百万円)	40,581	40,899	42,075
総資産額 (百万円)	76,300	78,730	76,756
1株当たり四半期(当期)純利 益金額又は四半期純損失金額 (円)	17.17	28.15	31.25
潜在株式調整後1株当たり四半 期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	31.4	29.9	32.3
営業活動によるキャッシュ・フ ロー (百万円)	3,410	1,235	5,609
投資活動によるキャッシュ・フ ロー (百万円)	1,909	4,495	1,007
財務活動によるキャッシュ・フ ロー (百万円)	480	3,462	989
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (百万円)	13,864	13,917	13,713

回次	第51期 第2四半期連結 会計期間	第52期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自平成26年7月1日 至平成26年9月30日	自平成27年7月1日 至平成27年9月30日
1株当たり四半期純損失金額 () (円)	4.31	17.58

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

3. 第51期第2四半期連結累計期間及び第51期の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

第52期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4. 「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)等を適用し、第1四半期連結累計期間より、「四半期(当期)純利益又は四半期純損失」を「親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失」としております。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

なお、第1四半期連結累計期間より、「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成25年9月13日）等を適用し、「四半期純利益及び四半期純損失」を「親会社株主に帰属する四半期純利益及び親会社株主に帰属する四半期純損失」としております。

（1）業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の経済政策を背景に、個人消費や輸出が持ち直すなど緩やかな回復基調となりました。一方で、中国経済の減速をはじめとした海外景気に対する不安感もあり、先行き不透明な状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループは、積極的な営業活動を展開するとともに、事業活動全般にわたる効率化及び合理化を推進し、業績の向上に努めてまいりましたが、当第2四半期連結累計期間の連結売上高は166億24百万円（前年同四半期比1.3%減）、連結営業利益は4億20百万円（前年同四半期比62.0%減）、連結経常利益は2億72百万円（前年同四半期比68.2%減）、親会社株主に帰属する四半期純損失7億1百万円（前年同四半期は親会社株主の帰属する四半期純利益4億27百万円）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

なお、前連結会計年度において報告セグメントの変更を行っております。詳細は、（セグメント情報等）「セグメント情報」「3. 報告セグメントの変更等に関する事項」をご覧ください。

- ・ 情報セグメントにおきましては、印刷需要の減少により依然として厳しい状況が続いており、売上高129億百万円（同2.4%増）となりましたが、セグメント損失3億72百万円（前年同期セグメント利益1億40百万円）となりました。
- ・ 葬祭セグメントにおきましては、四ツ木斎場の建て替えもあり、売上高37億19百万円（同8.9%減）、セグメント利益12億16百万円（同11.0%減）となりました。
- ・ その他セグメントにおきましては、売上高6百万円（同96.3%減）、セグメント損失18百万円（前年同期セグメント損失5百万円）となりました。

（2）財政状態

（資産）

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べて19億74百万円増加しております。主な要因は、「流動資産」が5億61百万円減少したものの、「有形固定資産」が31億15百万円増加したこと等によるものであります。

（負債）

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べて31億49百万円の増加となりました。主な要因は、「固定負債」が28億17百万円増加したこと等によるものであります。

（純資産）

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べて11億76百万円減少しております。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純損失7億1百万円を計上したこと等によるものであります。この結果、自己資本比率は29.9%となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前年同四半期連結会計期間末に比べ53百万円増加し、139億17百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における営業活動の結果得られた資金は、12億35百万円(前年同四半期は34億10百万円の獲得)となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益が0百万円であったこと等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における投資活動により使用した資金は、44億95百万円(前年同四半期は19億9百万円の獲得)となりました。これは主に、有形及び無形固定資産の取得による支出等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における財務活動による資金の増加は、34億62百万円(前年同四半期は4億80百万円の増加)となりました。これは主に、借入金が増加したこと等によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

当社は、企業価値および株主共同の利益を維持・向上させるため、以下のとおり、買収防衛策としての情報開示ルールを導入しております。

情報開示ルールの内容

(a) 大規模買付行為の定義

当社株式等を買付ける者のうち、情報開示ルールの対象となる者は、(イ)当事者を含む株主グループの議決権割合を25%以上とすることを目的とする買付行為を行おうとする者、または、(ロ)当該買付の結果、大規模買付者グループの議決権割合が25%以上となる買付行為を行おうとする者です。

(b) 大規模買付者による必要事項の提供

大規模買付者には、大規模買付行為を開始する前に、当社宛に、大規模買付者の名称、住所、設立準拠法、代表者の氏名、国内連絡先および大規模買付行為によって達成しようとする目的の概要を明示し、情報開示ルールを尊重する旨を記した意向表明書をご提出いただきます。当社取締役会は、大規模買付者から提出された意向表明書受領後10営業日以内に、大規模買付者に対し、以下の各事項を含み当社取締役会が大規模買付者の行為が当社の企業価値または株主共同の利益を低下させる買収に該当するか否かを判断するために必要と考える情報(以下これらを「必要情報」といいます。)の提供を要請する必要情報リストを交付します。当社取締役会は、大規模買付者から提供された情報が十分でないと考えた場合、大規模買付者に対して、再度、情報の提供を要請します。

当社取締役会は、大規模買付者から意向表明書が提出された事実および当社取締役会に必要情報が提出された場合にはその旨を開示します。また、必要情報について、当社株主の皆様への判断のために必要であると認められる場合には、適切と判断される時期に、その全部または一部を開示します。

(イ) 大規模買付者グループの概要

(ロ) 大規模買付行為によって達成しようとする目的および内容

(ハ) 買付対価の算定根拠および買付資金の裏付け

(ニ) 大規模買付者が当社の経営に参画した後に想定している経営方針、事業計画、財務計画、資本政策、配当政策、資産活用策、人事政策等が当社企業価値または株主共同の利益を低下させるものではないかを判断するために必要かつ十分な情報

(c) 当社取締役会による分析・検討

当社取締役会は、大規模買付者から必要情報の提供を受けた日から起算して90日以内の期間(ただし、取締役会は、必要がある場合には、この期間を30日を上限として延長することができます。延長する場合は、延長期間と延長理由を開示します。)(以下「分析検討期間」といいます。)、外部専門家の助言を受けるなどしながら、必要情報の分析・検討を行い、当社取締役会としての意見を取りまとめ、公表します。当社が、分析検討期間を原則として90日と定めているのは、当社の営む事業が、ゴルフ場事業という多様なステークホルダーに大きな影響を与える事業であること、および葬祭事業(子会社)という公共性が高く、その動向が地域社会に大きな影響を与える事業であること等から、大規模買付行為の企業価値に与える影響を慎重に検討する必要があるためです。当社取締役会は、分析検討期間中、必要に応じて、大規模買付者と交渉し、また、株主の皆様に対する代替案の提示を行うことがあります。

(d) 大規模買付行為の開始可能時期

大規模買付行為者は、分析検討期間の経過後にのみ開始することができるものとします。

(e) 情報開示ルールの適用外

当社取締役会は、上記(c)の分析・検討の結果、あるいは、それ以前であっても、大規模買付者による大規模買付行為が当社の企業価値または株主共同の利益を低下させる買収には該当しないと判断した場合には、以後情報開示ルールを適用せず、また、対抗処置を発動しない旨を直ちに決議し、当社取締役会が適切と判断する時点で公表します。

大規模買付行為がなされた場合の対応方針

(a) 大規模買付者が情報開示ルールを遵守しなかった場合

大規模買付者が情報開示ルールを遵守しなかった場合、当社取締役会は、会社法その他の法律および定款のもとで可能な対抗措置のうちからそのときの状況に応じ最も適切と判断した手段を選択し対抗措置を発動することがあります。

(b) 大規模買付者が情報開示ルールを遵守している場合

当社取締役会は、大規模買付者が情報開示ルールを遵守している場合には、大規模買付行為に対する対抗措置を発動しません。ただし、当該大規模買付行為が当社の企業価値または株主共同の利益を著しく低下させると合理的に判断される場合（買収目的や経営方針・事業計画等からみて企業価値を著しく損なうことが明白であるもの、買収に応じることを株主に強要する仕組みをとるもの、従業員、顧客、取引先などのステークホルダーの利益を損なう結果企業価値を著しく損なうものなど。）には、前記(a)と同様の対抗措置を発動することがあります。

(c) 当社取締役会による意見表明

当社取締役会は、大規模買付行為に対して対抗措置を発動しない場合でも、大規模買付者による大規模買付行為後の経営方針および事業計画が不合理であると疑う場合、当社取締役会の経営方針および事業計画（大規模買付者による大規模買付行為後の経営方針および事業計画に対する代替案を含みます。）に劣ると疑う場合その他当社の企業価値または株主共同の利益の維持・向上に資するものではないと疑う場合には、その旨の意見表明を行い、前記方針および計画を適切な時期に開示し、株主の皆様のご判断を仰ぎます。

対抗措置を発動する場合の手続き

当社取締役会は、大規模買付者に対して対抗措置を発動するのが適当か否かを判断する場合、その判断の公正性を確保するために必要があるときは、当社取締役会から独立した組織として設置される委員会に対抗措置の発動の適否を諮問し、勧告を受けます。

なお、当社取締役会が委員会に諮問して答申を受けるまでの期間は、(c)に定める検討分析期間内に含まれます。

(5) 研究開発活動

特記すべき事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	95,130,000
計	95,130,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (平成27年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成27年11月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	24,922,600	24,922,600	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数は100株 あります。
計	24,922,600	24,922,600	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増 減数(株)	発行済株式総数 残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額(百万円)	資本準備金残高 (百万円)
平成27年7月1日～ 平成27年9月30日	-	24,922,600	-	4,000	-	-

(6) 【大株主の状況】

平成27年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
櫻井 美江	東京都渋谷区	2,413	9.68
エイチ・エス証券株式会社	東京都新宿区西新宿6-8-1住友不動産新宿オークタワー27階	1,840	7.38
廣濟堂取引先持株会	東京都港区芝4-6-12	1,343	5.39
澤田ホールディングス株式会社	東京都新宿区西新宿6-8-1	757	3.03
廣濟堂社員持株会	東京都港区芝4-6-12	706	2.83
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2-11-3	607	2.43
株式会社学研ホールディングス	東京都品川区西五反田2-11-8	584	2.34
株式会社静岡中央銀行	静岡県沼津市大手町4-76	510	2.04
S M B C 日興証券株式会社	東京都千代田区丸の内3-3-1	506	2.03
株式会社ヤクルト本社	東京都港区東新橋1-1-19	462	1.85
計	-	9,730	39.04

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成27年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 8,500	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 24,889,400	248,894	-
単元未満株式	普通株式 24,700	-	-
発行済株式総数	24,922,600	-	-
総株主の議決権	-	248,894	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が4,300株(議決権の数43個)含まれております。

【自己株式等】

平成27年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
株式会社廣濟堂	東京都港区芝4-6-12	8,500	-	8,500	0.03
計	-	8,500	-	8,500	0.03

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成27年7月1日から平成27年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成27年4月1日から平成27年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、興亜監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	13,713	13,917
受取手形及び売掛金	6,915	5,839
商品及び製品	632	519
仕掛品	525	765
原材料及び貯蔵品	141	152
その他	1,399	1,575
貸倒引当金	366	369
流動資産合計	22,960	22,399
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	12,523	12,368
機械装置及び運搬具(純額)	2,694	2,656
土地	17,105	17,060
工具、器具及び備品(純額)	3,255	3,279
その他(純額)	2,293	5,621
有形固定資産合計	37,871	40,986
無形固定資産	1,158	1,238
投資その他の資産		
投資有価証券	8,423	7,822
その他	6,928	6,923
貸倒引当金	1,026	803
投資その他の資産合計	14,325	13,942
固定資産合計	53,356	56,167
繰延資産	439	163
資産合計	76,756	78,730
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,378	2,025
短期借入金	1,750	2,290
1年内返済予定の長期借入金	2,583	2,942
1年内償還予定の社債	1,924	2,064
未払法人税等	408	468
賞与引当金	344	342
返品調整引当金	38	21
その他	3,836	3,442
流動負債合計	13,263	13,595

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
固定負債		
社債	4,918	5,316
長期借入金	10,392	13,138
繰延税金負債	2,069	1,901
再評価に係る繰延税金負債	499	499
役員退職慰労引当金	150	157
退職給付に係る負債	23	21
その他	3,364	3,200
固定負債合計	21,418	24,235
負債合計	34,681	37,830
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,000	4,000
利益剰余金	20,701	19,792
自己株式	5	5
株主資本合計	24,696	23,786
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,445	1,086
土地再評価差額金	1,447	1,414
為替換算調整勘定	107	116
その他の包括利益累計額合計	105	211
非支配株主持分	17,273	17,324
純資産合計	42,075	40,899
負債純資産合計	76,756	78,730

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第 2 四半期連結累計期間】

(単位 : 百万円)

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成26年 4 月 1 日 至 平成26年 9 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成27年 4 月 1 日 至 平成27年 9 月30日)
売上高	16,838	16,624
売上原価	11,287	11,657
売上総利益	5,551	4,967
販売費及び一般管理費	4,442	4,546
営業利益	1,109	420
営業外収益		
受取利息	20	37
受取配当金	36	35
受取賃貸料	38	40
作業くず売却益	40	44
その他	62	37
営業外収益合計	198	195
営業外費用		
支払利息	167	135
その他	283	208
営業外費用合計	450	343
経常利益	857	272
特別利益		
固定資産売却益	660	5
投資有価証券売却益	-	2
特別利益合計	660	7
特別損失		
固定資産売却損	52	-
固定資産除却損	53	279
減損損失	38	-
その他	6	0
特別損失合計	151	279
税金等調整前四半期純利益	1,366	0
法人税等	565	415
四半期純利益又は四半期純損失()	800	414
非支配株主に帰属する四半期純利益	372	286
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失()	427	701

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失()	800	414
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	79	362
繰延ヘッジ損益	12	-
土地再評価差額金	12	33
為替換算調整勘定	38	10
持分法適用会社に対する持分相当額	22	3
その他の包括利益合計	63	315
四半期包括利益	864	730
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	481	1,017
非支配株主に係る四半期包括利益	382	287

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,366	0
減価償却費	1,172	1,065
引当金の増減額(は減少)	286	234
受取利息及び受取配当金	56	73
支払利息	167	135
売上債権の増減額(は増加)	1,583	1,079
たな卸資産の増減額(は増加)	303	137
仕入債務の増減額(は減少)	815	354
その他	1,361	160
小計	4,189	1,642
利息及び配当金の受取額	56	73
利息の支払額	171	141
法人税等の支払額	664	338
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,410	1,235
投資活動によるキャッシュ・フロー		
投資有価証券の取得による支出	13	0
投資有価証券の売却による収入	-	39
有形及び無形固定資産の取得による支出	498	4,358
有形及び無形固定資産の売却による収入	1,886	84
定期預金の増減額(は増加)	1,500	-
貸付けによる支出	270	118
貸付金の回収による収入	88	69
その他	783	211
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,909	4,495
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	1,450	540
長期借入れによる収入	3,800	4,700
長期借入金の返済による支出	3,131	1,595
社債の発行による収入	2,800	1,500
社債の償還による支出	862	962
自己株式の純増減額(は増加)	0	0
配当金の支払額	124	174
非支配株主への配当金の支払額	237	237
その他	313	308
財務活動によるキャッシュ・フロー	480	3,462
現金及び現金同等物に係る換算差額	3	1
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	5,797	204
現金及び現金同等物の期首残高	8,052	13,713
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(は減少)	14	-
現金及び現金同等物の四半期末残高	13,864	13,917

【注記事項】

(会計方針の変更)

(企業結合に関する会計基準等の適用)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)、
「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。)
及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)
等を第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更しております。また、第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更しております。加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第2四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58 - 2項(4)、連結会計基準第44 - 5項(4)及び事業分離等会計基準第57 - 4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。

これによる損益に与える影響はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

税金費用の計算

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)
給与賞与	1,512百万円	1,512百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)
現金及び預金勘定	14,864百万円	13,917百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	1,000	-
現金及び現金同等物	13,864	13,917

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月27日 定時株主総会	普通株式	124	5	平成26年3月31日	平成26年6月30日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間（自平成27年4月1日 至平成27年9月30日）

配当金支払額

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （百万円）	1株当たり 配当額 （円）	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年6月26日 定時株主総会	普通株式	174	7	平成27年3月31日	平成27年6月29日	利益剰余金

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

1. 前第2四半期連結累計期間（自平成26年4月1日 至平成26年9月30日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント				調整額 （注）1	四半期連結 損益計算書 計上額 （注）2
	情報	葬祭	その他	合計		
売上高						
外部顧客への 売上高	12,591	4,082	164	16,838	-	16,838
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	1	-	0	2	2	-
計	12,592	4,082	165	16,840	2	16,838
セグメント利益 又は損失（ ）	140	1,366	5	1,501	392	1,109

（注）1. セグメント利益又は損失（ ）の調整額 392百万円には、セグメント間取引消去 13百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 379百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費等であります。

2. セグメント利益又は損失（ ）は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 当第2四半期連結累計期間（自平成27年4月1日 至平成27年9月30日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント				調整額 （注）1	四半期連結 損益計算書 計上額 （注）2
	情報	葬祭	その他	合計		
売上高						
外部顧客への 売上高	12,898	3,719	6	16,624	-	16,624
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	1	-	-	1	1	-
計	12,900	3,719	6	16,626	1	16,624
セグメント利益 又は損失（ ）	372	1,216	18	825	404	420

（注）1. セグメント利益又は損失（ ）の調整額 404百万円には、セグメント間取引消去 6百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 397百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費等であります。

2. セグメント利益又は損失（ ）は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

前連結会計年度において、セグメント区分を5事業区分より3事業区分に変更しております。それに伴い、前第2四半期連結累計期間において、「その他」に含めておりました子会社1社につきましては、「情報」に含めることに変更しております。また、「葬祭」「その他」につきましては、従来の「葬祭関連事業」ならびに「その他事業」を名称変更いたしました。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の方法で作成しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額()	17.17円	28.15円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額又は親会社株主に帰属する四半期純損失金額()(百万円)	427	701
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額又は親会社株主に帰属する四半期純損失金額()(百万円)	427	701
普通株式の期中平均株式数(千株)	24,914	24,914

(注) 前第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

当2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年11月11日

株式会社廣濟堂

取締役会 御中

興亜監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 宇佐美 浩一 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 柿原 佳孝 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社廣濟堂の平成27年4月1日から平成28年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成27年7月1日から平成27年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成27年4月1日から平成27年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社廣濟堂及び連結子会社の平成27年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。